

愛媛県 四国中央市議会 教育厚生委員会様 行政視察（令和8年5月20日）

当事者だからこそ伝えられる **重層 5 年目** のリアルと効果

～ エックスハイウェイの結節点のように ～

愛知県 稲沢市 市民福祉部 福祉課
社会福祉法人 稲沢市社会福祉協議会



（個人情報保護の観点からケース概要や事例紹介、活動写真を削除する等、内容を一部変更しております）

稲沢市の概要

愛知県の北西部 濃尾平野の中央に位置

人口：132,162人（令和8年4月）



- ・ **令和4年度から**
『福祉の拠点』を中心に重層を展開！
(稲沢市役所東庁舎1階の総称)

愛知県内でも珍しい！（同じ庁舎内）
福祉課と社協が隣どうし！



重層に取り組んだ背景

複雑・複合的な課題を抱えたケースが増加



原因別・分野別の支援体制では、対応困難

- ・ **第4次 地域福祉計画・地域福祉活動計画**（令和2年度～6年度）



基本目標『相談体制の充実』

- ・ **ワンストップ福祉相談窓口の整備**

福祉の拠点（福祉課と社協） = 重層推進の拠点



福祉事務所の業務再編

福祉に関する相談、福祉関係者からの相談、法律相談などを**福祉課へ集約**

高齢介護課

- 老人福祉施設への措置に関すること
- 寝たきり老人及びひとりぐらし老人の福祉に関すること
- 高齢者の相談に関すること

子育て支援課

- 助産の実施
- 母子保護の実施
(特別児童扶養手当)

市民課

- 市民相談
- 法律相談

高齢介護課

- 生活支援体制整備事業の所管

令和3年度

令和6年度

福祉事務所
(福祉課)

これから、お伝えするのは

『等身大の取り組み紹介』です！

(= みなさんのまちでも再現可能！)

間違っても…

先進事例 ではありません！

実際に取り組んで良かったこと(重層の効果) や
苦勞したこと、今後の課題、これからの展望 等、
具体的な取り組み方 から 重層推進の考え方 まで
等身大の実践 を余すことなく お伝えします！

これまでの実践、**艱難辛苦**、**主観10割**ですが

何か一つでも、**皆様の参考** になれば幸甚です！

もくじ

- 1 重層の基礎理解
- 2 稲沢市の取り組み紹介
- 3 稲沢市が目指す『包括的な支援体制』とは？
- 4 具体的な取り組み方『How-to 重層』
- 5 課題への挑戦
- 6 社協が重層に取り組む意義



©稲沢市 いなッピー

1 重層の基礎理解

重層推進は 『共感と共創』 が9割

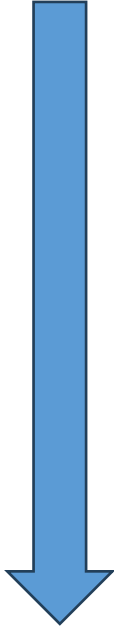
- 1-1 重層の基礎理解
- 1-2 重層推進とは何か？
- 1-3 重層推進の効果



稲沢市社会福祉協議会
マスコットキャラクター『福ちゃん』

1-1 重層の基礎理解

『包括的な支援体制』を創るための事業（手段＝ツール）

- 
- ① **包括的相談支援事業**（以後『相談支援事業』と略す）
 - ② **参加支援事業**
 - ③ **地域づくり支援事業**（以後『地域づくり事業』と略す）
 - ④ **アウトリーチを通じた継続的支援事業**（以後『アウトリーチ事業』と略す）
 - ⑤ **多機関協働事業**（以後、5つの事業をまとめて『**重層主要5事業**』と略す）

『地域共生社会の実現』を目指します！

重層の基礎理解に最適

地域共生社会の推進（厚労省ホームページ）

（旧）地域共生社会のポータルサイト

⇒重層の概要 から 推進プロセス まで幅広く紹介されています！

重層推進担当は、重層の意義

『なぜ、重層に取り組むのか？』を

『自分の言葉』で中学生にも説明できる

ようになることが望ましい！

⇒自分が腹落ちしていないのに、他者を『巻き込む』ことはできません！

1-2 重層推進とは何か？

『みんな』で理想の包括的支援体制を創る『過程』

① 主要5事業の強化と 一体的連動 を意識する！

特に『参加支援事業』と『地域づくり事業』の充実が重要であり最難関！

② 共感 から 共創 への流れを意識する！

多職種連携は、様々な関係者と苦楽を共にする支援の過程で育まれる！

『○○連携会議』や『各機関への通達』くらいで連携できるなら苦労しない！

重層推進は『共感と共創』が9割

① 既存事業を強化し、それらを繋ぎ合わせていく **過程**

(メインシステムの強化)

(多職種・異業種連携の強化)

② 出発点は 『重層で何を目指すか？』 の合意形成から

③ 皆が共感し、共に創り上げていく 過程こそが重要

ビジョンを語り、共感で巻き込み、

包括的な支援体制を共創する

重層推進は、

行政及び関係者『全員』で取り組んでいくもの

誤解① 行政と重層の委託事業者だけで取り組むものではありません！

誤解② 『総合相談窓口の新設』や『支援体制の概要図を描くこと』でもありません！（概要図を描いた時点がスタートです！）

誤解③ バラバラで主要5事業を実施することでもありません！

主要5事業に取り組むことよりも、

それらを **一体的に連動させる** ことの方が重要

重層推進の要諦は、人の意識改革

如何にして関係者の

当事者意識 と **共創への想い** を引き出すか・・・

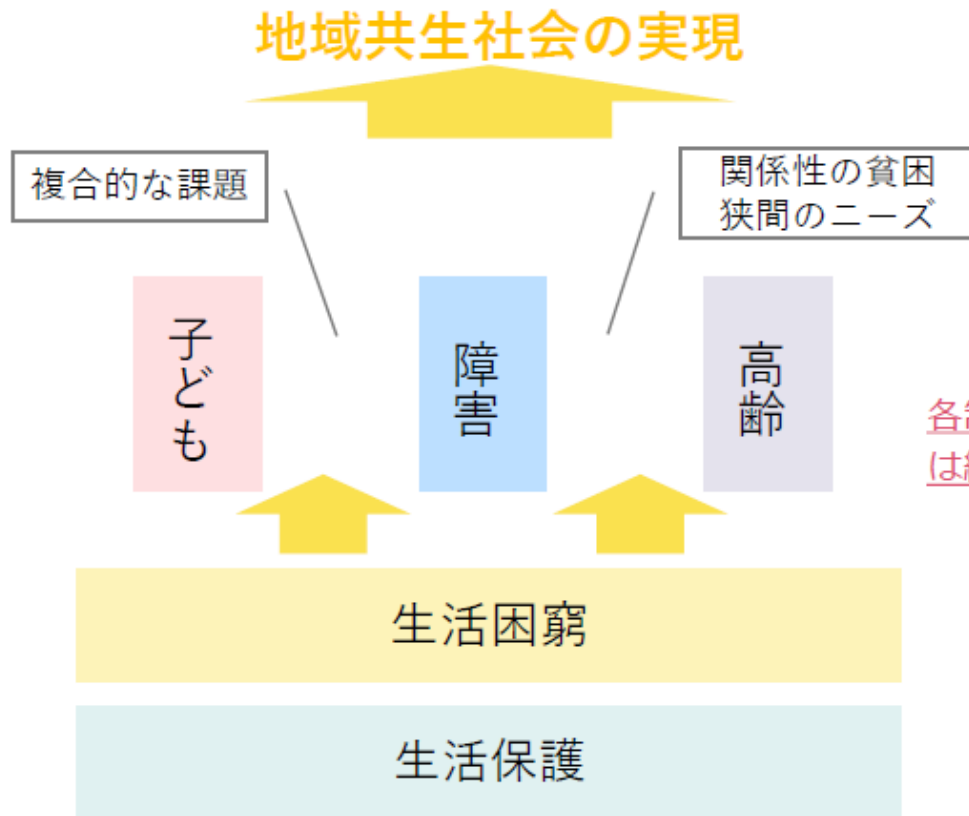
1-3 重層推進の効果

各事業の法制度による（属性や年代等の）縛りが
緩和されました！

⇒これで、誰もが（本業に支障がない範囲で）専門分野外の相談を受けたり、
制度の狭間に支援の手を差し伸べたりすることが『可能』に！

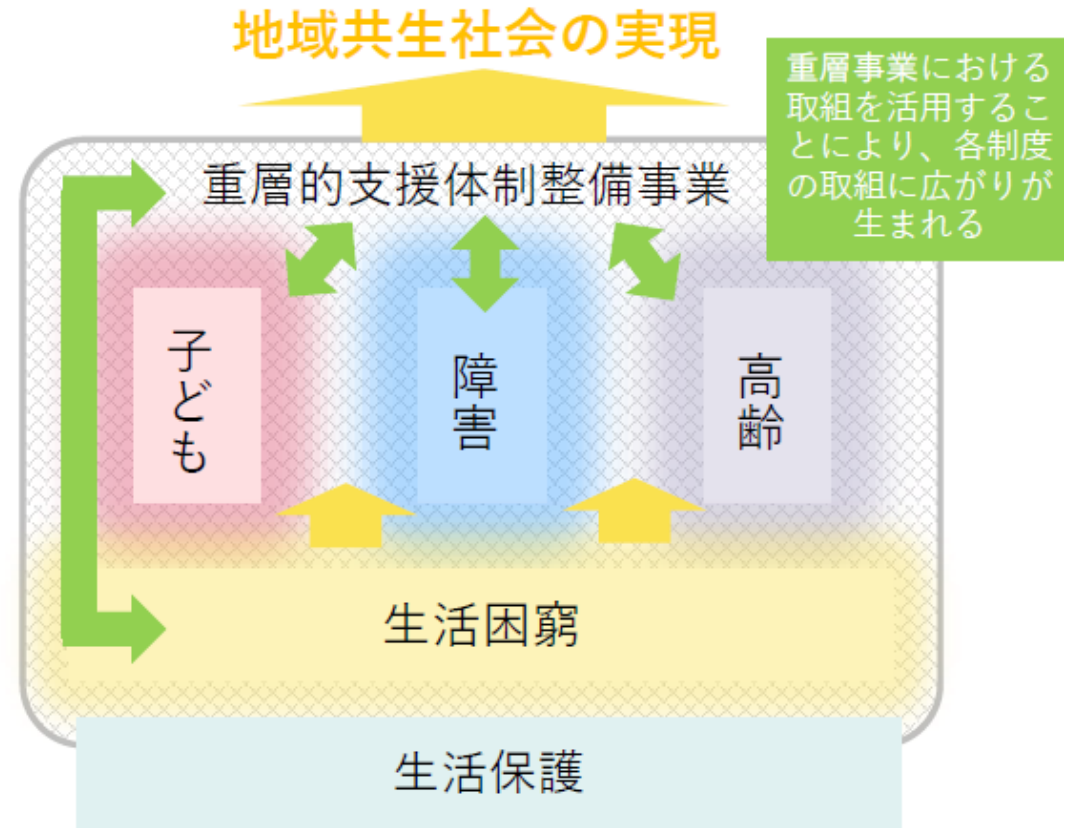
こんな感じですよ！ (厚生労働省の研修資料より引用)

【移行前】



各制度の役割
は縮小しない

【移行後】 稲沢市はこっち↓



重層開始前と比べて（私の実感）

①職場内外を含め 横の繋がりが強化 された！

様々な支援機関同士の繋がりができ『チーム支援の輪郭』が見え始めた！

②重層の要、福祉総合相談窓口の 機能が強化 された！ （メインシステムの一つ）

複雑・複合的なケース対応（検討）を重ねることによって、相談支援員の
コミュカ、対応の幅、支援スキル等が向上した！

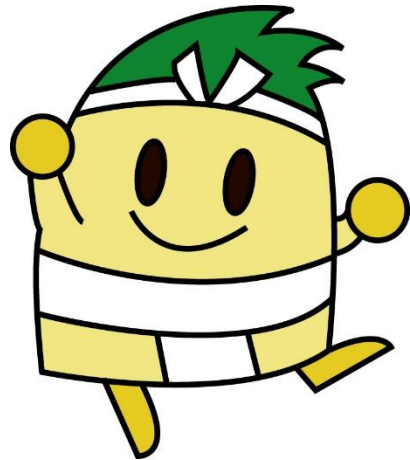
チーム支援を重ねたことによって 社協全体のメインシステムが強化 された！

～ SSWから実際に頂いた言葉 ～

『もう、一人で抱え込まなくてもいいんですね・・・』

(子育て分野の専門職向け 重層説明会にて)

2 稲沢市の取り組み紹介



今年で『**5**年目』

まだまだ、道半ば・・・



2-1 稲沢市の特徴

・福祉課と社協（福祉総合相談窓口）が重層の推進役

福祉課 ⇒ 重層（多機関協働）事業の設計と運用（評価・分析・改善）

事業全体の調整役（財源確保、庁内連携の充実 等）

社 協 ⇒ 包括的な支援体制づくり（稲沢市 e n モデルの充実）

複雑・複合的な課題を抱えたケースの支援調整

周知啓発（研修会の開催）、情報収集、社会資源の開発 等

・生活困窮者支援をベースに『仕組みづくり』を展開！

稲沢市は 福祉課と社協が一体 となって
重層を推進しています！

2-2 主要5事業の全てに社協が携わっています！

① 相談支援事業

基幹型地域包括、基幹相談支援センター、福祉総合相談窓口、成年後見センター

② 参加支援事業

福祉総合相談窓口（居住支援・就労準備支援事業）、生活支援コーディネーター（居場所づくり）

③ 地域づくり事業

生活支援体制整備事業 生活支援コーディネーター（CSWの専門性を兼ね備える）

④ アウトリーチ事業

福祉総合相談窓口（従来のアウトリーチ）、生活支援コーディネーター（早期発見型のアウトリーチ）

⑤ 多機関協働事業

福祉総合相談窓口（相談支援包括化推進員 = 重層の推進役）

2-3 福祉総合相談窓口の役割

①生活困窮者自立支援事業等の充実

家計改善支援事業、就労準備支援事業、子どもの学習・生活支援事業

②多機関協働事業等の充実

アウトリーチ事業、参加支援事業、ひきこもり支援事業（LINE相談含む）

複雑・複合的な課題を抱えたケースの支援調整

最も重要な役割 ⇒ 『包括的な支援体制づくり』の旗振り役

③居住支援事業（居住支援法人格を取得）の充実 社協では珍しい！

参加支援事業に位置付けて取り組んでいます！

多機関協働担当の役割

包括的な支援体制づくり と メインシステムの強化
(異業種連携の仕掛け役) (支援者の対応力向上)

2-4 エックスハイウェイの結節点のように

福祉の拠点（福祉課と社協） は、相談支援と地域づくり、

様々な分野・異業種交流の 結節点

誰一人取り残さない支援体制を実装する

重層推進の要 となる



連携事例の紹介（一部）

- **福祉 × 学校**（SSW・子育て支援など）

『不登校』から中学校卒業後の『ひきこもり』になる前からの

『シームレス』な支援体制づくり

- **福祉 × 司法**（検察庁・保護司など）

刑余者出所後の『シームレス』な支援体制づくり

福祉の拠点 は、四国中央市に走る

エックスハイウェイ∞の結節点 のような存在

四方から 困りごと や 地域 の 力 が 集まり、
拠点で交わり、新たな支援（資源）が生まれる

再び、拠点から **支援の輪** が広がり、また戻る

この拠点を中心とした **無限の好循環** ∞ が

市全体の福祉力を向上させる

3 稲沢市が目指す『包括的な支援体制』とは？

みんなの『縁』を育てています！



3-1 稲沢市が目指す『包括的な支援体制』とは？

『支援者を支援するための仕組み創り』 を目指しています！

(分野を超えた支援者どうしが有機的に繋がり、互いに支えあえる仕組み)

(誰がどんな相談を受けても、最適な支援機関に繋がる仕組み)

この『理想の支援体制』を『見える化』したものが

『稲沢市 e n モデル』 (支援体制のポンチ絵) です！

みんなで創る

『稲沢市の包括的な支援体制(重層的支援体制整備事業)』イメージ図 [実施主体:稲沢市]



第1の柱 誰一人取り残さない相談支援事業

(世代や属性を問わず包括的に相談を受け止める体制づくりとチーム支援の強化)

【関係部署】

学校
(スクールソーシャルワーカー)
病院
(医療ソーシャルワーカー)
社会福祉法人
消費生活センター
区長・民生委員さん
保護司さん
大家さん
(市役所 関係各課) 等

【高齢】

地域包括支援センター
基幹型地域包括支援センター
(高齢介護課)

【障がい】

基幹相談支援センター
相談支援事業所
(福祉課)

連携

【生活困窮】

福祉総合相談窓口
(福祉課)

【子ども】

こども家庭センター
子育て支援センター
(子育て支援課・保育課・健康推進課)

みんなで一緒に
支援(縁)の輪を
広げよう!!



第2の柱 参加支援事業

(社会との繋がりを回復するための支援策の充実)
福祉総合相談窓口・生活支援コーディネーター・企業・法人・団体 等

- ①見守り等居住支援の充実
- ②就労(準備)支援の充実
- ③多様な居場所づくり(人や地域との繋がりの場づくり)

アウトリーチ等を通じた継続的支援事業 (早期発見型アウトリーチの強化)

福祉総合相談窓口・生活支援コーディネーター
地域や関係機関との連携強化によって、ひきこもりや8050世帯等、支援が必要な方を早期に発見し、適切な支援につなぎます!

◎3本柱の強化と一体的な
連動が重要!!

◎私たち全員が当事者です!!



支援(縁)の輪

【稲沢市enモデル】

専門外の相談や複雑・複合課題を抱えた個人(家族)の相談は、全て「福祉総合相談窓口」が集約し、適切な支援に繋がります。

【福祉の拠点】福祉総合相談窓口(多機関協働事業)

支援の視点は、「家族の全体最適」と「チーム支援の強化(多職種連携)」

ステップ① ブラッシュアップ会議

(まずは、社協の専門職で複雑・複合課題の解きほぐし)

社協
(福祉総合相談窓口・基幹型地域包括支援センター・基幹相談支援センター・成年後見センター・生活支援コーディネーター)

ステップ② 稲沢市福祉総合相談対策支援チーム会議(支援会議) *関係機関

(市役所の専門職に加え、多角的な視点から家族全体の支援方針や役割分担等を更に検討します)

市役所(福祉課・子育て支援課・健康推進課) 社協 必要に応じて関係機関も参加

ステップ③ 稲沢市重層的支援会議(生活困窮者自立支援調整会議)

(稲沢市として支援方針や役割分担等の最終決定、支援の評価、不足する社会資源を検討します)

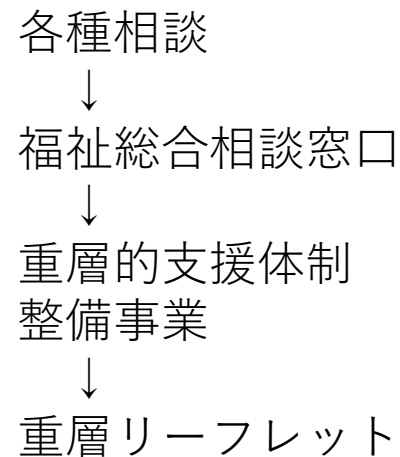
市役所(福祉課・子育て支援課・保育課・健康推進課) 社協

第3の柱 地域づくりに向けた支援事業

(地域の縁づくりと異業種が交流できるプラットフォームづくりの強化)

- ①世代や属性を超えて交流できる場や居場所の整備(多様な居場所づくり)
【高 齢】 地域介護予防活動支援事業(高齢介護課)・生活支援体制整備事業(福祉課)
【障がい】 地域活動支援センター事業(福祉課)
【生活困窮】 生活困窮者支援等のための地域づくり事業(福祉課)
【子 ども】 地域子育て支援拠点事業(子育て支援課)
- ②社会資源(共通価値)を共創する場の整備(地域貢献活動の活性化)
異業種が集う様々なプラットフォームの整備(福祉総合相談窓口・生活支援コーディネーター)
社会資源の創造 = 地域の困りごと × 地域の力 × みんなの想い

社協のHPからダウンロードできます。



3-2 『稲沢市 e n モデル』とは？

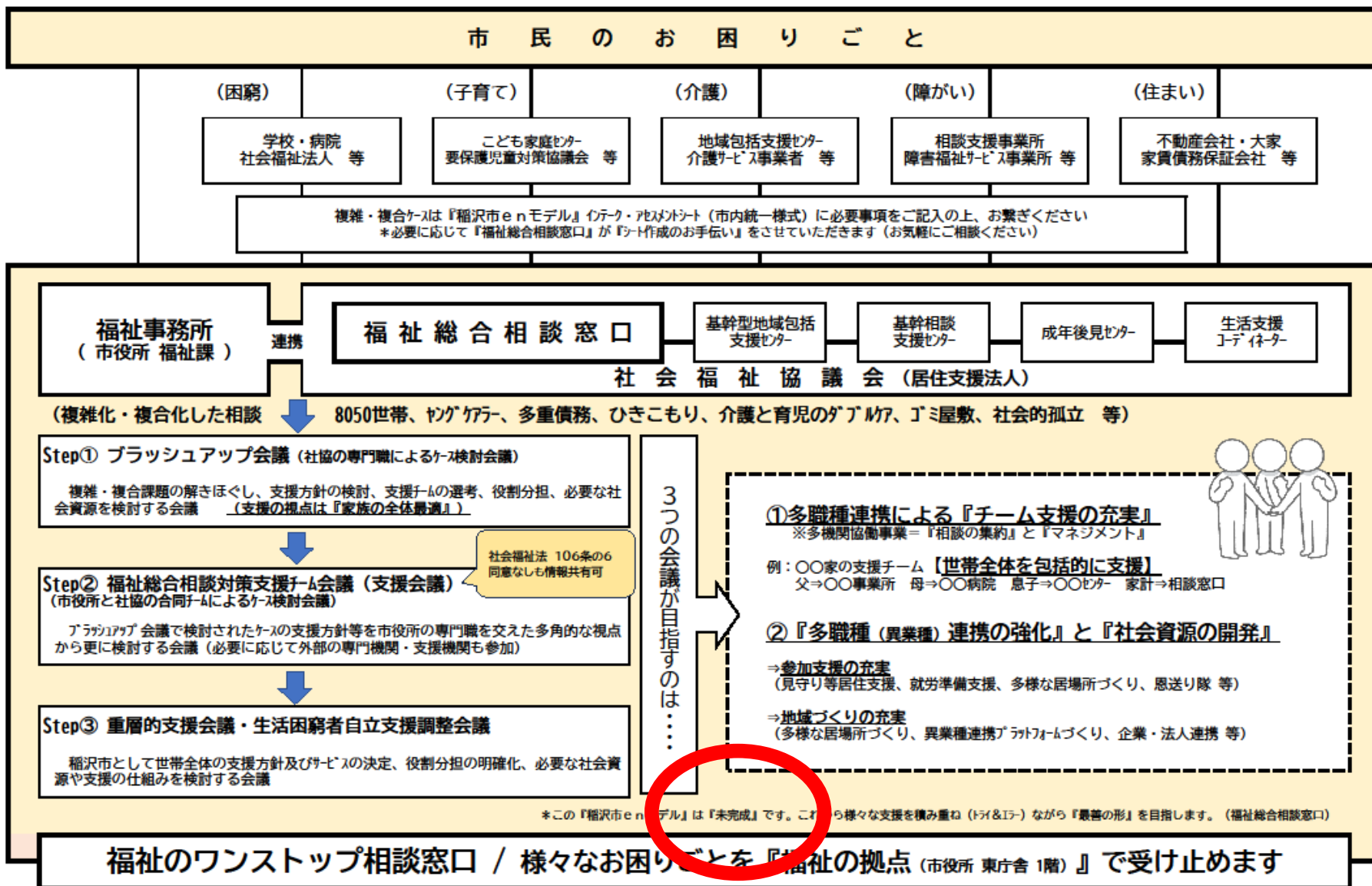
【多職種連携のフロー図】

- ・ 複雑・複合課題の相談受付から支援開始までを可視化したもの
- ・ 福祉総合相談窓口が受付けた複雑・複合課題を抱えたケースは 『3段階のケース検討会議』 で支援方針等をブラッシュアップします！
- ・ これらの会議には、様々な専門職が集まり 『複眼的な視点』 から 『世帯全体の支援方針』 を検討します！

稲沢市enモデルは、永久に**未完成**が理想！？

重層的支援体制整備事業 『稲沢市enモデル（多機関協働による『包括的支援体制づくり』の全体像）』（ver.3 2024/6更新）

【みんなで強化するポイント】⇒ ①支援者を支援する仕組み ②どこからでも専門機関に繋がる仕組み ③複雑・複合課題をチームで支援する仕組み



社協のHPからダウンロードできます。

各種相談
↓
福祉総合相談窓口
↓
重層的支援体制整備事業
↓
稲沢市enモデル

複雑・複合的なケースを繋ぐ際の 共通ルール

丸投げ禁止！

3段階の会議で支援精度を高めます！

各会議の検討視点は 『世帯の全体最適』 と 『チーム支援の充実』

step①ブラッシュアップ会議（複雑ケースの解きほぐし及び支援プランの素案作成）



社協の専門職によるケース検討会議（新人相談員のOJT・SV機能を兼ねる）

step②福祉総合相談対策支援チーム会議（『支援会議』）



市役所の専門職を含めたケース検討会議（必要に応じて関係機関も参加します）

step③重層的支援会議（生活困窮者自立支援調整会議）

現場レベルで検討した支援プランや役割分担等を最終決定する会議

ブラッシュアップ会議（令和8年2月6日）の様子

この日は、西尾市の皆様が見学されました！



【ポイント】

ブラッシュアップ会議は、社協専門職の
『スキルアップの場』でもあります！

ケース検討を通し

各分野のベテラン専門職の知識や経験、感性、
アセスメントの視点や関わり方のコツなど
支援のノウハウ（暗黙知）も学び合います！

ブラッシュアップ会議 と 対策支援チーム会議 を

参加者全員のスキルアップの場 にしたい！

分野を超えた各専門職の知識(形式知)や

支援のノウハウ、感性(暗黙知)を

参加者全員が共有できる場を創っていききたい！

3つの会議では『ケース検討』を通して

稲沢市に不足する社会資源の開発 も検討します！

(= 参加支援事業の充実)

【工夫した点】

ケース検討会で使用するインタビュー・アセスメントシートに

『あったらいいなと思う社会資源』 を記載する欄を設けました！



『稲沢市enテ』 インテーク・アセスメント (Ver. 5)

ケース番号 【 年度 - 案件月 - 該当する項目に☑ 窓口が記入】

●支援機関・部署(必須)

支援機関名(部署名)	〇〇地域包括支援センター	依頼日	西暦	年	月	日
情報共有の同意	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	担当者名				
支援機関等の主訴(困りごと・支援依頼の内容)	・同居の息子の支援をお願いしたい 無職の息子(50代)がおり、父親の年金で生活をしている状態 父親は、施設入所を検討しており、息子の今後について心配している ・庭の手入れができておらず、自宅前の通学路や隣の家にも草木が飛び出て非常に危険 年金でぎりぎりの生活を営んでいるため、業者委託も困難(息子も困難=ひきこもり状態)					
支援機関の対応状況	・父親の支援については、他機関と連携し支援中 〇〇居宅介護支援事業所 〇〇地域包括支援センター ・息子については、部屋の奥に閉じこもっている様子 どの機関も関わっていない(社会から孤立している状態 父親と話すのみ)					

本人との初回相談日

●支援対象者・相談者(世帯)の状況(必須)

受付機関	担当署名	受付日	西暦	年	月	日
ふりがな	生年月日	西暦	年	月	日	
氏名	電話					
住所	住居の状況	(持ち家) 賃貸・()				

当ではまる項目に○

() 人世帯	性別	年齢	職業 学校	医療保険・失業保険・介護認定・障害認定・ 健康状態・就学援助・各種手当受給状況・最終学歴等
名前	続柄			
〇〇 〇〇	本人			【医療保険】 国保、社保、後期高齢 マル保、マル保、母子医療等
〇〇 △△	父			【介護認定】等級を記載 【障がい認定】種別、等級を記載 【就学援助】受けている場合は記載

無職
会社員
パート
アルバイト
自営
〇〇学校〇年

家族関係図(ジェネグラム)

(例)

家族構成について、分かる範囲で記載

息子に対する支援をお願いしたい(包括)
20代の頃に離職して以来、ずっと引きこもっている状態
自室の壁に本人が破壊したと思われる大きな穴が開いている
時々「独り言」を壁に向かって話しかけている
父親は息子が怖いので話しかけることを避けている

特記事項

二世帯
本人(息子) 52歳 無職 通院歴なし 部屋にこもっている
時々、父に暴言を吐く 過去に自殺未遂あり
ひどく、やせ細っている
父 84歳 要介護2 デイビス週3 認知症の疑い
施設入所を検討している

●支援対象者・相談者(世帯)の家計状況(任意)

項目	金額(円)	備考	項目	金額(円)	備考(滞納状況等)
父の年金	90,000	高齢厚生+高齢基礎	家賃	0	
収入項目	給与・年金・児扶・児手・扶助料		電気		・収支及び資産(負債)の全容把握が望ましいが、初回から全て聞き取ることは困難(拒む場合は無理しない) ・債額関係を築きながら、徐々に全容を明らかにする ・傾向として『負債』は、後出しが多い
合計	90,000		ガス		
借入金	返済月額(円)	残額(円)	水道		
〇〇ファイナンス	10,000	800,000	食費		
〇〇金融	15,000	200,000	日用品費		
固定資産税・国保税	0	500,000	電話		
合計	15,000	1,500,000	インターネット		
負債の状況			保険料		
資産等の現状	円		学費	0	
預貯金			毎月の返済	15,000	
固定資産	持ち家・車・その他		合計	90,000	
所持金					
保険等	生命保険・損害保険・その他()				

当ではまる項目に○
プルダウンで選択
A:緊急 B:新規 C:支援中 D:保

●以下、福祉総合相談窓口 記入欄

対応結果	同意に向けて取り組む	支援の対応区分	() 対応
アセスメント課題等	・父親に認知症の疑いがあるため、在宅での生活(息子の世話含む)は困難 父親が入所すると息子が残されるので施設入所をためらっている ・庭の草木が生い茂っている。 父親の金銭的にも、体力的にも、草刈りや枝の剪定は困難。息子は庭に無関心 ・息子の言動から障がいの疑いがあるが、支援に繋がっていない		
対応(支援実施)状況(令和 年 月時点)	●月〇日 地区包括、基幹包括、相談窓口にて個別会議開催し情報を共有する ●月△日 ケア社と相談窓口にて訪問実施 父親から話を伺う 本人に会えず ●月△日 稲沢市福祉総合相談対策支援チーム会議でケース検討を行う ●月△日 愛知県精神保健福祉センター(ひきこもり支援)を招いてケース検討を行う ●月△日 自宅訪問		
支援方針	長期目標	・父親:施設入所 本人:本人の意思で目標を立てて達成に向けて取り組む ・息子と会うことができた際は、信頼関係を築き支援に繋いでいく ※息子に対する支援方針は、本人と関わることができてから再検討する(就労、金銭面、障がいの有無、生保へのつなぎ等)	
	短期目標	次回にアテンド 年月 1ヵ月〜3ヵ月先の	
支援機関	支援内容		
〇〇地域包括支援センター	父親の支援(施設入所に向けた支援)		
基幹型地域包括支援センター	父親の支援(〇〇地域包括支援センターの後方支援)		
生活支援コーディネーター(社協)	地域と連携し見守りネットワークの構築、隣近所の支え合いの仕組み構築(支え合いによる庭の剪定)		
福祉総合相談窓口	自宅訪問を繰り返して、父親との関係を築きつつ、息子との関係構築支援、就労支援		
保健所-基幹相談支援センター	福祉総合相談窓口の後方支援		
社会資源開発	※現時点で社会資源がなく、必要だと考えられる支援		
ひきこもり家族会-ピアサポーター	有償ボランティア(近所の助け合い)⇒今後、一人暮らし高齢者が増えることも想定		

1年後の目標
1ヵ月〜3ヵ月先の

社協のHPからダウンロードできます。

各種相談
↓
福祉総合相談窓口
↓
重層的支援体制整備事業
↓
インテーク・アセスメントシート

3-3 参加支援事業が一番難しい！

～『相談支援』と『地域づくり』の架け橋づくり～



参加支援事業は

『既存の仕組みでは対応できないニーズ』に対応するため、
社会資源を活用し、社会との繋がり創りに向けた支援を行う事業

既存の社会資源とのマッチングや

ニーズに合った、新しい支援メニューを創る事業

参加支援事業は 社会参加への架け橋づくり！

ただ、この橋は、誰もが渡れるわけではありません。

橋を渡る（参加支援事業として位置付ける）ためには


参加支援事業者が発行する『通行許可証（支援プラン）』

が必要になります！

社会資源開発の公式 (*私の仮説です。只今、検証中！)

$$\underline{A \times B \times C = 『恩送り隊』 (無償の地域貢献活動)}$$

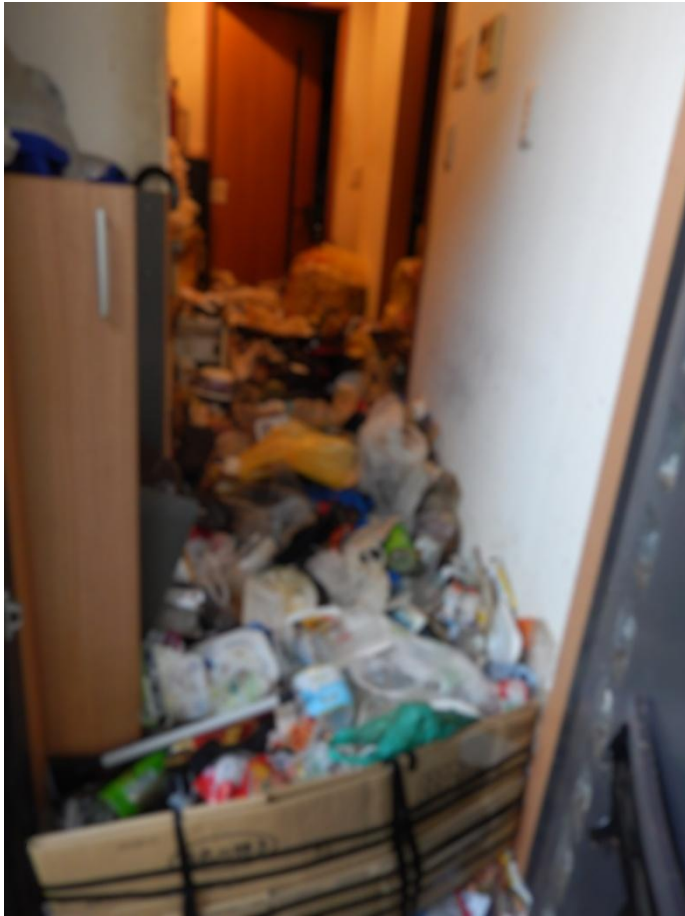
恩送り隊は、社協職員の『狂気的情熱』と若き経営者の『熱き想い』から生まれた！

- A** 既存の仕組みでは、解決できない『ニーズ (困りごと)』
(生活困窮世帯の①ゴミ屋敷片づけ、②草木の伐採、③引越しの手伝い 等)
- B** 社協職員の『狂気的情熱 と 創造 (妄想) 力』  ここが『0』だと…
- C** 稲沢市民の『地域貢献活動への熱い想い』

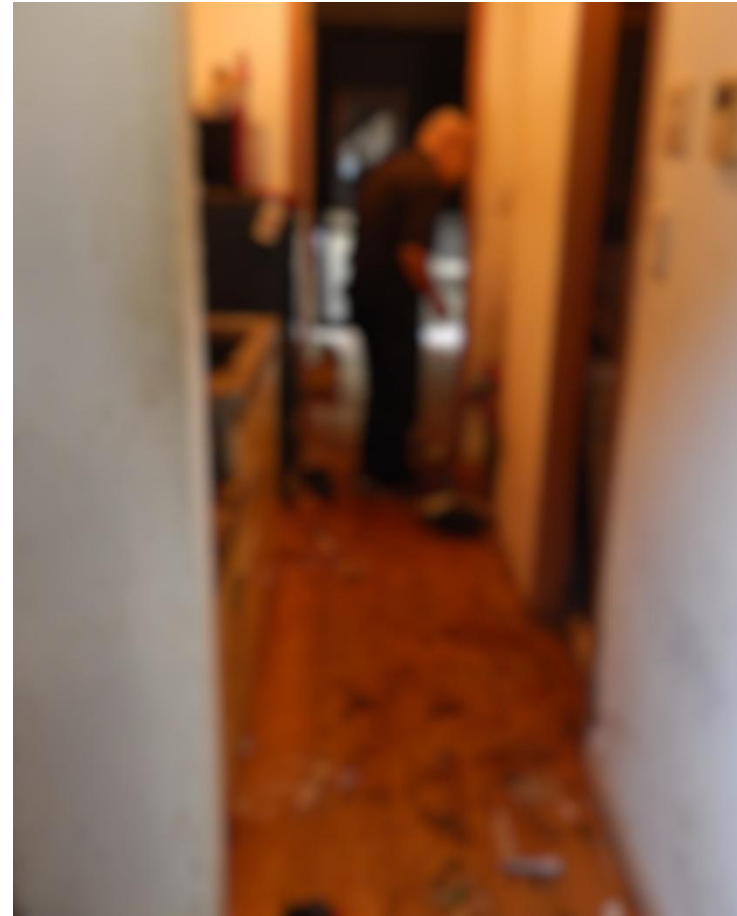
恩送り隊の活動

(令和7年10月 単身70代男性)

活動前



活動後



【今まで】

足の踏み場もなく
介護保険サービス
等が使えない状態
でした。

【これから】

介護保険サービス
等を活用しながら
生活を立て直しま
す。

【家主の気持ち】

今度は、私が誰か
のお手伝いをさせ
ていただきます！

近所から『ゴミの出し方』を注意されたことがきっかけで・・・

今度は、私が手伝います！

(困っている誰かのために、私も貢献したい)

私たちは、参加支援事業の充実を通して

『恩送り（* Pay it forward）の文化』も

広めたい！（市内で『善意の好循環』を創りたい！）

* 自分が受けた善意を誰かに送ることで善意を繋いでいくこと

ちなみに、本会の独自事業 『**居住支援事業**』 も

社協職員の 『**狂気的情熱**』 から4年越しで立ち上げた

参加支援事業のひとつです！



(詳しくは、本会のHPもしくはNORMA社協情報 2024年10・11月号 をご覧ください！)

A × B × C = 『居住支援事業』

居住支援事業も、相談支援員の『狂気的情熱』から生まれた！

A 既存の仕組みでは、解決できない『ニーズ（困りごと）』

(夫に先立たれて家を維持することが困難、足腰が悪くなってきたので1階に転居したい 等)

B 社協職員の『狂気的情熱と創造（妄想）力』

(住宅確保要配慮者からの相談に何も答えることができなくて悔しかった・・・)

(当時は『（住まいに関して）社協に何ができるの？』とまで言われた・・・)

C 地元不動産店の『社会貢献活動への思い』

～居住支援×SDGs～

居住支援法人 稲沢市社会福祉協議会

住宅確保要配慮者居住支援法人 愛知第25号(令和4年3月16日 愛知県指定)

住宅確保要配慮者居住支援法人とは、住宅確保要配慮者の民間賃貸住宅への円滑な入居の促進を図るため、住宅確保要配慮者に対し賃貸住宅への入居に係る住宅情報の提供・相談、見守りなどの生活支援等を実施する法人として都道府県が指定するものです。

○支援対象(稲沢市在住)

生活困窮者、高齢者、障がい者など、住まいにお困りの方

○支援内容

① 住み慣れた住居で安定した生活を続けるための支援

「家賃滞納」「心身の状態に不安がある」「仕事がない」など

生活を維持することが困難な課題に対して、必要な制度や支援機関に繋がります。

例) 就労支援……生活困窮者自立支援事業(福祉総合相談窓口)

介護保険制度……地域包括支援センター、高齢介護課

障害福祉サービス…基幹相談支援センター、相談支援事業所 など

② 家探しが必要な世帯に対する入居支援

「家賃が高い」「立ち退き」「住み替え」など

市内の協力不動産店と協力し、新しいお住まいを一緒にお探しします。

大家さんに断られてしまう「課題」に対し、支援機関が包括的に支援をすることで、大家さんの不安が軽減されるようアプローチします。

社会福祉法人 稲沢市社会福祉協議会

福祉総合相談窓口(居住支援担当) ☎ 0587-32-1484

〒492-8269 稲沢市稲府町1番地 稲沢市役所東庁舎1階

開設時間：月～金 8時30分から17時15分まで(祝日・年末年始は除く)

支援の流れ(家探し)



(このリーフレットは、稲沢市社協のホームページからダウンロードできます)

市民の困りごと(ニーズ)に真摯に向き合う

狂気的情熱 が全ての原点

社会資源が無いなら、創ればいい！

担当者の悩み（今後の課題＝参加支援事業の整理）

様々な支援メニュー（社会資源）が増えたのは、良いことだが、
何が参加支援事業に該当するのか？分からなくなってきた・・・

例えば、

ひきこもりの方が参加しているお寺での清掃活動は？

地元企業での就労体験は？（就労準備支援事業との兼ね合いは？）

参加支援事業が『難しい』と言われる理由

- ・ マニュアル や ひとつの正解 がない

生活困窮・地域包括などの相談支援は、全国的に『ほぼ同じ形』で実施可能
一方、参加支援や地域づくりは、地域特性を活かすため『千差万別』

- ・ 担当者に高度なスキル（メンタル）が求められる

アセスメント力、コーディネート力、社会資源開発力、胆力 等が必要！

挑戦と批判（失敗）はセット ⇒ 困難を乗り越えていく狂気的情熱が必要！

- ・ 『公平』という名の思考停止を乗り越えないといけない

社会資源開発（多様な主体の協働）に取り組んだ際に言われた言葉

なぜ、社協が特定の企業（法人）と連携するんだ？

他の企業（法人）からクレーム（不公平）が来たらどうするんだ？

社協なんだから『公平に関わっていく』必要があるんじゃないか？

【 皆さんも一緒に考えてみてください 】

重層推進における『公平』とは何か？

重層推進における『社協の公平性』とは

企業や法人、団体、地域住民の熱量に比例して
応えていくこと

だと私は考え、行動してきました

私の実体験より

最初から一律公平に全ての企業等と連携することは不可能！

同様に全ての地域の『地域づくり』を平等に手掛けることも不可能！

ならば、意欲ある企業や法人等との連携から始め、仕組みを創り、

モデルに育て、見える化させ、地域全体に広げていく実践こそが

『重層推進そのもの』ではないだろうか？

批判を避けるため

都合よく **公平性** を盾にして **思考停止** に

なっていないか？

重層推進における **公平性** とは

熱量に比例して応えていく こと

間違っても公平に何もしないことではない！

心の中で正しいと感じることをしなさい

どうせ批判されるのだから

3-4 地域づくり事業の取り組み

- ・ **S C（生活支援コーディネーター）5名配置**

第1層 S C = 1名 第2層 S C = 4名

- ・ **第1層 S Cの主な役割（市全域）**

第2層 S Cの後方支援、企業や社会福祉法人連携の強化、C S W活動 他

- ・ **第2層 S Cの主な役割（支所・市民センター圏域）**

協議体の運営、多様な居場所づくり、C S W活動 他



【生活支援体制整備事業で「地域づくりに向けた支援」】
多世代交流型サロン『よってっ亭』立上げ伴走支援（稲沢市梅須賀町）

重層推進におけるS Cの役割（社協の強み）

- 『相談支援事業』と『地域づくり事業』の橋渡し役

個別ケースから社会資源開発や地域づくりに繋げる役割（その逆も）

⇒S Cは、毎回『重層のケース検討3会議』全てに参加しています！

- **C S W（早期発見型のアウトリーチ含む）としての役割**

C S W（コミュニティーソーシャルワーク）の専門性を併せ持つS Cが

民生委員や町内会、協議体等、地域との強い繋がりを活かして、

支援が必要な方を早期に発見し、適切な支援機関に繋がります！

みんなで創る

『稲沢市の包括的な支援体制(重層的支援体制整備事業)』イメージ図 [実施主体:稲沢市]



第1の柱 誰一人取り残さない相談支援事業

(世代や属性を問わず包括的に相談を受け止める体制づくりとチーム支援の強化)

【関係部署】 学校 (スクールソーシャルワーカー) 病院 (医療ソーシャルワーカー) 社会福祉法人 消費生活センター 区長・民生委員さん 保護司さん 大家さん (市役所 関係各課) 等	【高齢】 地域包括支援センター 基幹型地域包括支援センター (高齢介護課)	【障がい】 基幹相談支援センター 相談支援事業所 (福祉課)
連携		
【生活困窮】 福祉総合相談窓口 (福祉課)	【子ども】 こども家庭センター 子育て支援センター (子育て支援課・保育課・健康推進課)	



第2の柱 参加支援事業

(社会との繋がりを回復するための支援策の充実)
 福祉総合相談窓口・生活支援コーディネーター・企業・法人・団体 等

- ①見守り等居住支援の充実
- ②就労(準備)支援の充実
- ③多様な居場所づくり(人や地域との繋がりを強める)

**アウトリーチ等を通じた継続的支援事業
(早期発見型アウトリーチの強化)**
 福祉総合相談窓口・生活支援コーディネーター

地域や関係機関との連携強化によって、ひきこもりや8050世帯等、支援が必要な方を早期に発見し、適切な支援につなぎます!

【稲沢市enモデル】
 専門外の相談や複雑・複合課題を抱えた個人(家族)の相談は、全て「福祉総合相談窓口」が集約し、適切な支援に繋がります。

◎3本柱の強化と一体的な連動が重要!!

◎私たち全員が当事者です!!

【福祉の拠点】福祉総合相談窓口(多機関協働事業)

支援の視点は、「家族の全体最適」と「チーム支援の強化(多職種連携)」

ステップ① ブラッシュアップ会議
 (まずは、社協の専門職で複雑・複合課題の解きほぐし)

社協
 (福祉総合相談窓口・基幹型地域包括支援センター・基幹相談支援センター・成年後見センター・生活支援コーディネーター)

ステップ② 稲沢市福祉総合相談対策支援チーム会議(支援会議) *関係各課
 (市役所の専門職に加え、多角的な視点から家族全体の支援方針や役割分担等を更に検討します)

市役所(福祉課・子育て支援課・健康推進課) 社協 必要に応じて関係機関も参加

ステップ③ 稲沢市重層的支援会議(生活困窮者自立支援調整会議)
 (稲沢市として支援方針や役割分担等の最終決定、支援の評価、不足する社会資源を検討します)

市役所(福祉課・子育て支援課・保育課・健康推進課) 社協

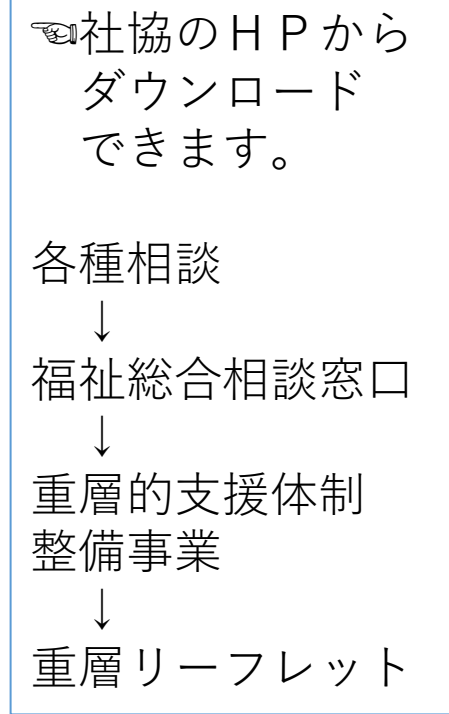


第3の柱 地域づくりに向けた支援事業

(地域の縁づくりと異業種が交流できるプラットフォームづくりの強化)

- ①世代や属性を超えて交流できる場や居場所の整備(多様な居場所づくり)
 - 【高 齢】 地域介護予防活動支援事業(高齢介護課)・生活支援体制整備事業(福祉課)
 - 【障 がい】 地域活動支援センター事業(福祉課)
 - 【生活困窮】 生活困窮者支援等のための地域づくり事業(福祉課)
 - 【子 ども】 地域子育て支援拠点事業(子育て支援課)
- ②社会資源(共通価値)を共創する場の整備(地域貢献活動の活性化)
 - 異業種が集う様々なプラットフォームの整備(福祉総合相談窓口・生活支援コーディネーター)

社会資源の創造 = 地域の困りごと × 地域の力 × みんなの想い



地域住民も **アウトリーチ事業** の担い手に！？

稲沢市は、相談支援や地域づくり等、これまで取り組んできた

『社協の強み』を活かした重層を展開しています！

重層は、市町村の『創意工夫』で取り組むもの！

だから『1700通りの形』があっいいんです！

4 次は、具体的な取り組み方

『How-to 重層』 をご紹介します！

エッホ エッホ



『重層推進は、3手順でOK!』って
みんなに伝えなきゃ！

重層推進は、たったの3手順でOK！



Step③仮説形成と仮説検証

Step②情報収集（TTPA）と内情把握

Step①内発的動機付けと基礎理解の徹底

Step① その前に・・・（ここ、超重要！！！！！！）

- ・まず、実施主体（自治体）として

『何のために取り組むのか？』を明確にする！

（重層事業移行への合意形成）

何のために取り組むのか？

(重層は包括的な支援体制を創るための **手段の一つ** にすぎない)

ここを曖昧にしてスタートすると **迷走** します！

(重層移行への合意形成ができれば)

- **重層推進担当者 (自治体の旗振り役) を選任する！**

～ 選任のヒント ～ **重層は 『創意工夫』 で取り組むもの！**

⇒ 『創意工夫』を『*やりたいほうだい！』と読める人が適任！

*当然『守るべきルール』を熟知した上での『やりたい放題』です！

あれもやりたい！こんな支援体制を創りたい！とワクワクできる人
自ら課題を設定し（他者を巻き込みながら）取り組んでいける人が適任！

(重層推進担当者自身の)

Step① 内発的動機付けと基礎理解の徹底

- ・まず、担当者自身の『内発的動機 (主体性)』を高める！

重層推進担当には『自ら考え、行動し続ける力 と 楽観力』が必要！

↑このスキルを持つ『旗振り役の有無』が重層推進の明暗を分けます！

- ・重層の基礎理解を徹底する  『意識が高い』だけではダメ！

『制度』 『先進事例』 『我がまちの状況』 の3つを理解する！

『理解した』とは『自分の言葉で中学生にも説明できる』状態です！

内発的動機 が全ての原動力！

重層推進は **やらされ仕事** でできるものではない！

Step② 情報収集（TTPA）と内情把握

- ・ 先進地を視察してTTPA 『A』

重層推進のセオリーは、ゼロからイチを生み出すのではなく

先進地の取り組みを徹底的にパクって、我がまちの形に『アレンジ』する！

【注意】丸パクリは機能しません！ なぜかって？ 地域特性（社会資源）が違うから！

- ・ 我がまち（地域特性や社会資源等）の把握 （内側の把握）

内側の把握 = 既存事業や支援体制、社会資源の棚卸（再確認）

これを知らずして『理想の支援体制』を描くことは、できません！

重層推進のヒント

『既存の強み（支援体制・人財・社会資源）を活かす！』

棚卸ができたなら『既存の強み（支援体制・人財・社会資源）』を
ベース（土台）に『主要5事業』を連動させていく！

【担当者の独り言】

私たちは、稲沢市の既存の強み『生活困窮者支援の仕組み』を土台に、
先進地の〇〇モデルをパクって『稲沢市 e n モデル』を創りました！

既存の **強み** × 先進地の **TPA**

みなさんのまちの **強み** は何ですか？

Step③ 仮説形成と仮説検証（ここ、重層担当の醍醐味！）

- ・ **仮説形成**（ビジョンを『妄想し、見える化』させる）

厚労省の想い、社会資源、地域特性、強み、先進事例等を総合的に勘案し

担当者の**妄想**（理想の支援体制）を『見える化』させる！ 👉ここ重要

- ・ **仮説検証**（周知啓発 ⇒ 巻き込み ⇒ 試行錯誤 ⇒ 活動評価）

みんなを巻き込んで試行錯誤する『過程』こそが『重層推進』そのもの！

皆を巻き込んでいくためには

(皆が正しく認識できる)

『共通のビジョン』が必要！

* 稲沢市の場合は『稲沢市enモデル』です！

ビジョン（理想の支援体制の概要図）を描く際のポイント

- ① 既存事業（我がまちの強み）を活かしているか？
- ② 主要5事業が連動しているか？
- ③ 先進地の取り組みをパクって（オマージュして）いるか？
- ④ 重層推進担当者の妄想（想い）が詰まっているか？
- ⑤ 分かりやすい 紙1枚の相関図として描けているか？

概要図なんて未完成でも、間違っているとしても全く問題なし！

みんなで試行錯誤する過程こそが重層の推進 なんだから！

とにかく 『動き始めること』 が重要です！

『理想の支援体制の概要図（ビジョン）』が描けたら

後は、みんなを巻き込んで（口では簡単に言えるが超困難！）

試行錯誤（実践と検証）を繰り返すだけ！

じゃあ、どうやって巻き込んでいくのか？

(3つの仕掛け)

他者を巻き込む3つの仕掛け

1. ケース支援（協働）を通して巻き込む
2. 対話（雑談）を重ねて巻き込む
3. 周知啓発（研修会等）で巻き込む

重層の うんちく を伝えるよりも、

包括的支援体制づくりへの想い を

語った方が100倍届く！？

重層推進のヒント

『周知啓発やビジョンは100回伝えるつもりで！』

・ 『伝える』と『伝わる』は、全く違う！

『伝わる』とは、相手の行動が変容すること（部下への指導も同じ！？）

1回や2回の研修会で行動変容するなら苦勞しない！

研修は、参加型のグループワークが効果的！？

重層推進のヒント

『巻き込むときは、相手のメリットを強調する！』

- ・人は、利益と『感情』で動く！？

理屈で『人が動く』なら苦勞しない！！

- ・包括的な支援体制づくり（ビジョン実現の先にあるもの）が自分にとってどのような利点があるのか強調する！

重層推進のヒント 『連携の定義を明確に！』

『連携しましょう！』では『連携できません！』

なぜなら『連携の定義が人によって曖昧』だから

・ 私たちの『連携の定義』は、次の①②を満たす状態です！

①互いの顔、役割・業務内容、連絡先を知っている

②気軽に相談できる関係になっている

⇒『仕事以外の雑談』もできる関係なら言うことなし！

他者を巻き込む時は

定義の明確化 と 具体化(言語化) を意識する！

連携の秘訣は、対話（雑談）と協働

- 用がなくても『対話（雑談）』する！

連携の充実度は『関係者間のコミュニケーションの総量』に比例する！

多職種連携は、様々な関係者との『何気ない会話（雑談）』と『苦楽を共にする支援の過程（協働）』で育まれます！

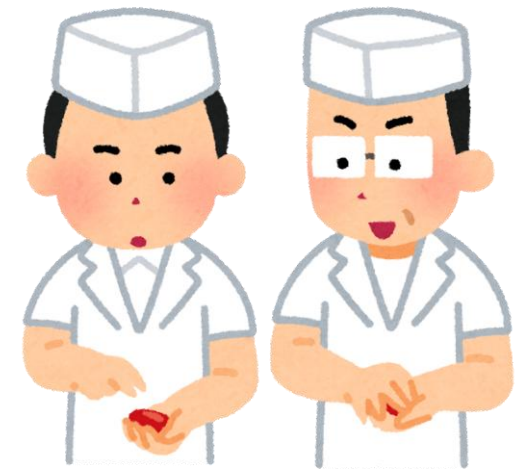
対話×協働 ⇒ 共感 ⇒ 共創

(共感無くして、共創なし！)

5 課題への挑戦

ベテランのスキル（支援の感性・機微＝暗黙知）を
如何にして、次の世代へ伝えていくか・・・

- 5-1 4年間で見えてきた課題
- 5-2 『人財育成』への挑戦
- 5-3 『共感 ⇒ 我が事 ⇒ 共創』への挑戦
- 5-4 『活動評価』への挑戦



5-1 4年間で見えてきた3つの課題

課題①『人財育成』 ＊最も重要な課題

自ら考え、主体的に行動（協働）できる人財を如何に育てていくか？

課題②『当事者意識の欠如』（まだまだ、他人事？）

如何にして支援体制づくりに我が事として巻き込んでいくか？

課題③『重層推進の活動評価』（数字だけでは評価できない！）

体制づくりや地域づくり等『見えないもの』をどう評価するか？



5-2 『人財育成』 への挑戦

包括的支援体制づくりの要諦は 『人づくり』

組織の枠を超えた『皆が成長する場』を創りたい！

⇒ 『各分野の支援員の対応力強化＝メインシステムの強化』

『SECI（セキ）モデル』を応用し、組織の枠を超えたベテラン支援員の『知識（形式知）と感性（暗黙知）を共有できる場（学び合える場）』を創りたい！

5-3 『共感 ⇒ 我が事 ⇒ 共創』への挑戦

(あの手この手を使って実験中！いったい、何が効果的なんだ？)

重層の目的 ⇒ 『皆で』 包括的な支援体制を整備すること

では、どう働きかければ、人の心は動くのか？

2方向への仕掛け * どちらも『感情』にフォーカスする！

社協内部 ⇒ インナーブランディング

社協外部 ⇒ ナッジ理論 × 周知啓発（研修会）100回

重層推進の核を担う社協職員の『主体的な考動』を 促すためには インナーブランディング が有効！？

管理職（リーダー）が各部門の社協職員に対し、社協の（各部門の）M V V
（ミッション・ビジョン・バリュー）を浸透させることによって、
仕事への使命感、誇り、帰属意識、主体性等を高めるための取り組み。

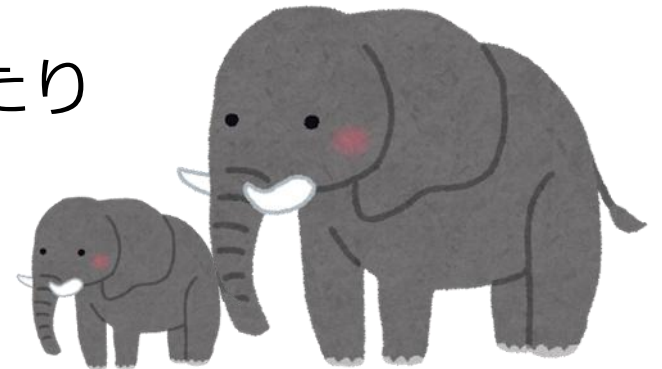
語句の説明

【SECIモデル】 *ナレッジマネジメントの基礎理論

個人が蓄積した知識や経験（暗黙知）を組織全体で共有して形式知化し、
新たな発見を得るための知識創造プロセス

【ナッジ理論】 *行動経済学の理論の一つ

人々を強制したり、経済的なインセンティブを与えたり
することなく、望ましい行動を促す戦略
協働への『第一歩』を如何にして促すか？



5-4 『活動評価』への挑戦

『評価なくして、改善なし！』

目下、重層的支援体制整備事業の評価指標の一つ

『A + B + Cモデル』を勉強中！

書籍『重層的支援体制整備事業における評価活動のすすめ』
を何度も読み直していますが、未だに理解できません！
(誰か教えてください・・・)



何となく『分かってきた』こと

評価活動のポイントは、次の二つに集約される！？

①主要5事業の『土台（既存事業＝メインシステム）』を評価する

土台（基礎）＝ 地域福祉（活動）計画、既存の取り組み、人的資源 等

②評価活動に多くの関係者を巻き込む

評価よりも『みんなで評価するプロセス自体に意義がある』のでは？

ちなみに、評価・分析・改善の中心は、実施主体である自治体です！

最後のテーマ

重層を通して

社協の存在意義 を考えます！

なぜ、社協が重層に取り組むのか？

6 社協が重層に取り組む意義

～ 重層事業を通して『社協の存在意義』を考える ～

- 6-1 重層は社協そのもの！
- 6-2 社協が重層に取り組む意義
- 6-3 再び、地域福祉（地域づくり）の中核へ
～ ゆでガエル社協に明日はない！ ～



社協の使命（社会福祉協議会基本要項2025より）

住民主体の理念に基づき、

住民や地域の関係者との協働により

「ともに生きる豊かな地域社会」を創造する

社協の活動原則（社会福祉協議会基本要項2025より）

①住民ニーズ基本の原則

②住民活動基盤の原則

③個別支援と地域づくりの一体的展開の原則  重層そのもの

④民間性の原則

⑤（福祉分野に限らず他分野との）連携・協働の原則  重層そのもの

⑥専門性の原則

何か気づきませんか？

社協基本要項 と 重層事業 は

共通点が多いんです！

③個別支援と地域づくりの一体的展開

⑤福祉分野に限らず他分野との連携・協働

これらは、重層事業推進においても核となる部分

地域づくり と 連携・協働(ネットワーク創り)は

社協が 最も得意(強み) とする分野

6-1 重層は社協そのもの！

4年間、取り組んできて確信した！

重層ほど『社協の存在意義』を示せる事業はない！

重層は、これまで積み上げてきた『社協事業の延長線上』にある！

6-2 社協が重層に取り組む意義

- ・ 社協にとって重層は、既知の事業

他法人・団体等に比べ 圧倒的なアドバンテージ（優位性） がある！

- ・ 重層の出来は『地域づくりの充実』にかかっている！

主要5事業の中でも『地域づくりと参加支援』は、難易度が高い事業

特に『地域づくり』には、長年培ったノウハウと実績 がある！

重層の半分は **地域づくり** でできています！

私たちは、最も得意とする 地域づくり から

地域共生社会の実現 (= 重層事業の推進) に

貢献する責務がある！

6-3 再び、地域福祉（地域づくり）の中核へ

・ 社協なら、失敗を恐れず突き進め！

地域づくりには、正解もマニュアルも無いからこそ、本当に難しい！
社協の強みは『フットワークの軽さ』だったはず

・ 本当の失敗は『何もしない』こと！

現状維持、前年通り、指示待ち、同じ事業の繰り返しで本当にいいのか？
真剣に考え、悩み、チャレンジした結果に『失敗』なんてものはない！
チャレンジした先にあるものは『成功』か『成長』しかない！

全国の様々な取り組みを見てきてよく分かった！

NPOや社会福祉法人等の **地域づくり** には

目を見張るものがある！（本当にすごい！）

拳句の果てには・・・

社会福祉法 第6条に **行政の責務** までが明記

包括的な支援体制づくり や **地域福祉の推進** は、

行政が責任をもって進めていくだと・・・？

社協は、もう、あてにされていない？

『 地域福祉の中核を担う社協 』

なんて言われていたのは、過去の話

私たちは、

(自主財源の減少、NPOや他の社会福祉法人等の台頭……)

社協が置かれている **危機的な状況** に

早く、気づかないといけない！

いつまでも、同じ考え方、
同じ事業の繰り返しでは
もう生き残れない！



ゆでガエル社協 に明日はない！

私たち社協が、

誇りと危機感、そして勇気を持って

地域社会へ貢献(挑戦)し続けることができたなら、

地域福祉の中核を担う社協としての役割が

再構築(認識)され、

地域共生社会の実現は、確かな現実となるだろう

稲沢市の**重層充実**は、(主要5事業全てに携わっている)

社協の覚醒 にかかっている

といっても過言ではない！

ご清聴、ありがとうございました！

今回のご縁をきっかけに貴市のご担当者様とも
交流や情報交換ができれば幸甚です！